

## 第 25 期第 5 回運営委員会報告

日時：2010 年 3 月 23 日（火） 11:30 ~ 12:50, 13:30 ~ 17:00

場所：京都大学生存圏研究所 総合研究実験棟 CB316 号室、HW525 号室

出席者 17 名（定足数 11 名）：津田敏隆会長、家森俊彦副会長、  
阿部琢美、石井守(リモート)、小田啓邦、河野英昭、齋藤昭則、  
坂野井和代、塩川和夫、篠原育、堤雅基、長妻努、畠山唯達、村田功、山本衛、  
吉川一朗、清水久芳

欠席者 1 名：木戸ゆかり

### 議事

#### 1. 前回（第 25 期第 4 回運営委員会）議事録の確認

・確認の後、承認された。

#### 2. 協賛・共催関係（山本）

・衛星設計コンテストの審査委員選出の依頼があり、委員を選出したことが報告された（「9. アウトリーチ活動」参照）。

・IAGA 2013 候補地（インド、メキシコ）と、開催地選出プロセスが紹介された。開催地は、各国一票の投票を行い、決定される。投票先は、IAGA 小委員会にて決定する。

#### 3. 入退会審査（清水）

（1）入会 3 名申請があり、全員入会が承認された。

・入会者 3 名：

正会員（一般）：森川靖大（所属：情報通信研究機構、紹介会員：村田健史・坪内健）

正会員（学生）：廣岡伸治（千葉大学、服部克己・中西正男）、陳佳宏（京都大学、町田忍・家森俊彦）

（2）退会 9 名の申請があり、全員の退会が承認された。

・退会者 9 名 高橋八郎、和田淳、徳永直樹、藤田裕一、安原文彦、岡田昭明、中島英彰、鈴木勝久、公田浩子

（3）シニア会員 6 名の申請があり、全員のシニア会員への移行が承認された。

シニア会員（6 名） 三浦保範、西田泰典、森弘隆、田中良和、五家建夫、永野宏

#### 4. 会計関係（阿部・村田）

- ・平成21年度の会費納入状況について、資料をもとに説明された。滞納分納入まで含めると、当初の想定通りの納入率であった。
- ・会費請求通知は、各年度に2回行う。(1度目は通常の請求通知、2度目は督促。)
- ・平成22年度の会費請求スケジュールを確認した。また、連合大会会場にて会費納入が可能であることが周知された。
- ・長期滞納会員のリストが提示され、今後の対応が検討された。
  - 3年以上滞納者が除籍勧告対象者であることが確認された。
  - 4年以上滞納30名(うち10名に対しては、2007年3月、2008年3月に除籍勧告通知済)、3年滞納14名、2年滞納11名。
- ・議論の結果、除籍対象の長期滞納者に、会費納入の意思があるか再度確認することとした。除籍勧告通知済みの10名のうち7名については除籍し、3名については会員を継続する意思があるかどうかの確認を運営委員から行うこととした。
- ・本年3月の時点で3年間会費未納の会員には、除籍勧告を行うことが確認された。

## 5. 名誉会員および長谷川・永田賞について(津田・石井)

### 5-1. 名誉会員の推挙について

- ・名誉会員推挙手順について確認を行った。
- ・2名の推挙候補者について、議論を行った。議論は次回運営委員会でも行う。

### 5-2. 長谷川・永田賞候補者について

- ・長谷川・永田賞候補者の推薦手順について確認された。
- ・1名の推薦候補者が挙げられた。推薦書類をもとに、候補者の推薦可否について、長谷川・永田賞推薦者選考委員会で議論を行う。

## 6. 助成関係

### 6-1 若手国際派遣について(吉川・阿部)

- ・3月17日に開催された臨時運営委員会(TV会議)において、2名の申請が採択されたことが報告された。また、2名のうち、1名が辞退した。
- ・採択:越田友則会員(所属:電気通信大学、派遣先:EGU、ウィーン)
- ・1名の辞退の理由は申請者が他の派遣費助成に申請し採択されたことであるが、運営委員会での採択決定時期が遅かったのも原因の1つであり、今後の若手国際派遣申請審議時期を早めるべきであるという意見が出された。今後の募集時期(対象期間との対応)と審議時期にこの意見を反映することとした。
- ・平成22年度の若手国際派遣の補助内容について議論を行い、以下の通り決定した。
  - 派遣補助は全額補助を基本とする。これには、予稿投稿料、学会参加登録料、滞在費も含む。

- 全額補助に伴い、学会から採択者への支払い方法を清算払いとすることとした。採択者の負担を軽くするため、学会前に概算で支払い、学会後に最終的な清算をすることとした。
- ・ 科研費等、他の資金を持っている申請者が本申請に申請する場合は、なぜ本助成が必要な理由の記述をすることとした。また、これに合わせて申請書様式を変更することとした。
- ・ 平成22年度募集スケジュールについて、資料をもとに議論した。
  - これまでと同様に4タームに分けて募集することとした。
  - 募集締切後、速やかに審議をすべきだという意見があった。また、学会開催時期に対して応募時期をこれまでよりも早い時期に設定するべきであるという意見があった。
  - 上記意見について議論し、運営委員会開催時期にあわせて応募締切を設定することとした。このため、現段階で締切が決定しているのは、第1回目の締切(5月14日)のみ。また、申請時期を早めることとした。
  - 定例の運営委員会が締切直後に開催できない場合は、TV会議を含めた臨時運営委員会を開催し、審議をする。
- ・ 本助成への申請は、メールによる電子申請のみでも可とすることとした。(これまでは押印済の紙書類も提出。)
- ・ 「辞退する場合は早急に知らせること」という旨の文を申請書受領メールで申請者に周知することとした。

#### 6-2 山田科学振興財団助成の審査(山本)

- ・ 4件の申請があった。事前に書類審査を行った運営委員が、各申請についての意見を公表した。
- ・ 審議の結果、以下2件の申請を、本学会から山田科学振興財団へ推薦することとした。
  - 陰山 聡(神戸大学): 磁力線追跡機能を組み込んだ地球ダイナモシミュレーション
  - 北 和之(茨城大学): 音響光学法による大気黒色炭素エアロゾルの放射吸収と被覆・混合による増幅効果の解明。

#### 7. 秋学会(第128回総会および講演会)関係

##### 7-1. 秋学会日程と会場について(長妻)

- ・ 次回秋学会の開催会場と日程が報告された。

会場: 沖縄県市町村自治会館研修施設(那覇市旭町)

開催日程: 2010年10月31日~11月3日

- ・ 会場施設について紹介された。会場の都合により、3平行セッションでプログラム編成を行う予定であることが報告された。また、4会場が不可避な場合には、ホールを分

割することが可能であることが紹介された。

- ・保育室設置とポスター会場について、引き続き検討をすることとした。
- ・LOC の体制が報告された。
- ・秋学会時のアウトリーチイベントを、10月30日に久茂地公民館（那覇市久茂地）で行うことが報告された。

#### 7-2. 秋学会までのスケジュールについて（篠原）

・秋学会までのスケジュール案の検討結果が報告された。昨年と比べて、開催時期は一カ月ほど遅いが、昨年と二週間ずらしたスケジュールを基本とする案が了承された。

- ・重要な日程は以下のとおり。

5月21日 特別セッション募集締め切り

6月28日 投稿受付開始

7月30日 投稿締切

8月3日 投稿締切予備日

8月10日 コマ割り決定

8月24日 プログラム編成作業完了

10月13日 冊子体プログラム送付

10月31日～ 秋学会開催

#### 7-3. 秋学会投稿システムについて（山本）

- ・JpGU と交渉の末、投稿システムの使用許可を得たことが報告された。
- ・投稿システムの管理者 JCOM であり、投稿システム使用の為には費用がかかることが報告された。平成22年度は JpGU 投稿システムが変更された直後であり、このシステムを本学会用に改変する必要があるため、例年よりも高額な費用がかかる見込み。正式な見積もりは4月にされる予定。
- ・見積もり額によっては、平成22年度の本学会予算の見直しが必要となる。この場合、連合大会時の総会において、予算組み替え承認の議決をする必要がある。
- ・他学会の投稿システムの利用と使用料金低下の見込みについて議論された。

#### 8. 分科会について（山本・河野）

- ・分科会に関する内規をもとに、分科会幹事は運営委員会に対して、毎年1度活動報告を行う必要があることが確認された。
- ・分科会報告の会報掲載状況が河野委員から報告され、過去3年以上記事掲載のない分科会が3つあることが紹介された。また、この3分科会の最近の活動状況について、関係する委員が説明を行った。今後、分科会の継続・名称変更・解散等の意思を、関係する委員から幹事に確認することとした。

- ・分科会を解散する場合には総括が必要であるという意見があった。

#### 9. アウトリーチ活動について（長妻・畠山）

- ・衛星設計コンテストの審査員選出の依頼があり、國分征会員を本学会から選出した。
- ・JST プログラム「地域ネットワーク支援」が紹介された。

#### 10. 男女共同参画関係について（長妻）

- ・学協会連絡会シンポジウムが10月7日に東工大において開催されたことが報告された。本学会担当者からは、ポスドク任期制雇用についての話題提供があった。
- ・将来設計支援に関する要望と科学技術分野の男女共同参画に関する要望についての提言をまとめ、11月13日に学協会連絡会から内閣府へ提出された事が報告された。
- ・平成21年秋学会の保育室・託児室を、2家族4名が利用したことが報告された。

#### 11. Web・メーリングリスト関係（堤）

- ・これまでの活動状況が報告された。英語ページについては、作業を継続する。
- ・sgepsbb メールリストに流れたメールが、Web ページに掲示されるまでの時間が長いという指摘があったことが報告された。これまではマニュアルでメールから Web ページへの掲示を行っていたが、今後自動化する予定。
- ・sgepsbb に投稿されるメールの文字化けが多く、対応を必要とする。

#### 12. 学会創立60周年特別事業（石井・山本）

- ・これまでの経緯と、記念誌残部の今後の取り扱いについて報告された。
  - 12月原稿完成、1月印刷完了、2月3日購入者への送付開始。販売総数は117冊。現在の残部は38部。
  - 残部は本学会が適当部数（15部程度）買い取り、他は関係機関に購入を依頼する。
- ・資料を用いて、財政状況が報告された。経費合計は816,360円、収入合計は614,780円（26冊分未集金）。残部をすべて販売すると、190,000円の収入。11,580円の赤字が残るが、学会予算から支出する予定。
- ・記念誌発行委員会は、今期運営委員の終了前に解散する予定。

#### 13. EPS 関係報告（斎藤）

- ・JpGU の発行予定のジャーナルについて報告された。EPS と JpGU のジャーナルが協調できるように、今後議論を継続する。
- ・JST による JGG の電子化作業が進行中であることが報告された。URL を sgepsall と web で会員に周知する。
- ・会員より、EPS オープンアクセス化への要望意見があったことが報告された。この問題

について、EPS 委員会で議論を予定。

#### 1 4. その他

##### 1 4-1. 前回運営委員会以降、これまでに起こった事項の確認（津田会長）

- ・ JpGU の代議員が選出された。代議員中約 1/6 が SGEPPS 会員。
- ・ 事業仕訳に対する意見書を提出した。

##### 1 4-2. 科学技術政策に関する意見募集（山本）

- ・ 科学技術政策に関する意見募集について紹介された。締切は 3 月 31 日。学会からは意見を出さず、意見がある場合には、個人的に要望を提出する。

##### 1 4-3. 運営委員会運用マニュアルについて（石井）

- ・ 内規等書かれていない、申し送り事項・覚書の管理に問題があり、運用マニュアルに相当する文書が必要ではないか、という意見が出され、今後検討することとした。

#### 1 5. JpGU 連合大会期間中の運営委員会等

23 日(日) 17:00-20:00 運営委員会 203

24 日(月) 18:15-20:15 評議員会 201A

26 日(水) 12:30-13:30 総会 302